



い わ む ら
岩村みゆき 議員
IWAMURA Miyuki

Q. ごみ減量とカラス対策は

A. より一層の周知啓発を図る

Q 町においては、ごみ排出量減量への取り組みが実質二酸化炭素の排出量減量につながるものと思っている。現状のごみ減量への取り組みを聞く。

A 生活福祉部長

本町の一人一日当たりのごみ排出量は令和2年度時点で「620グラム」と県内では10番目に排出量が多く、リサイクル率も悪い状況である。この状況を踏まえ、資源分別の徹底や、水切りなどの生ごみの排出方法について、周知啓発を図っているところである。

令和4年度、ごみ減量につながる新たな取り組みとして役場庁舎内で「段ボールコンポスト」の実証実験を始めた。



家庭でもごみ減量を



また、食品ロス削減を図るため、フードドライブを環境フェスティバルで初めて実施した。

今後、食品ロスを含め、ごみ減量に向けた取り組みとともに周知啓発に努める。

Q 近年、カラスが多く見られるようになった。対策が必要では。

A 生活福祉部長

カラス対策については、広報に「生ごみを新聞や紙袋で覆って中身が見えないようにする」「防鳥ネットの設置」「生ごみを減量する」など、ごみの出し方の工夫を紹介している。

今後より一層の周知を図ってまいります。

Q. 図書消毒器の導入は

A. 改善が進めば検討する

Q 社会教育センター図書室では、返却後の図書は一冊一冊消毒を行っているが、利用者の目に見える形の安心安全という点で、図書消毒器を導入してはどうか。

A 教育委員会事務局長

現在、多くの利用者に安心安全に利用いただけるよう、返却本について一冊ずつ職員による消毒を実施している他、入口に手指消毒液の設置、カウンターや机などの消毒の実施、パーテーションの設置など、出来る限りの感染症防止対策を講じて運営している。紫外線照射による図書消毒器は、新型コロナウイルスに対し効果が確認される報告もあるが、照射による図書の劣化が指摘されている。

今後、図書消毒器の改善が進めば、改めて検討する。

Q ICTを使ったサービスの充実も求められる。ネットを使ったサービスの拡充を行った。内容を聞く。

A 教育委員会事務局長

令和3年2月から図書室にある8万6000冊の本をインターネットにより予約できるシステムに改めた。24時間いつでもインターネットを利用して予約することができる。

Q ラインを使ったサービスの内容を聞く。

A 教育委員会事務局長

毎月、「書窓」の案内、また、ボランティアグループによる「読み聞かせ」の案内など市民の皆さまが読書に親しむための機会の提供を発信している。